小泉議員が講演

神奈川森林土木建協が交流事業

神奈川県森林土木建設業協会（山本善一会長）は14日、自民党農林部会長を務める小泉進次郎衆院議員を講師に迎え、会員交流事業・講演会「日本の林業並びに林道の重要性について」を開いた。会場の秦野商工会議所には会員や市民など約130人が集まり、森林を守る林業の重要性や、いざという時に「命の途」となる林道の大切さを、より深く学んだ。

小泉議員と会員一同で記念撮影

山本会長は冒頭、県土の40％近い面積を占める県内森林の荒廃は水源環境税による森林整備工事が県内各地で実施され、「〝美しい神奈川の森林〟の復活が目に見えてきた」と評価した。その上で東日本大震災で孤立した集落の生命線となり、人々の命を救った林道の役割と日ごろのメンテナンスの重要性を示し、「一般社団法人としての自覚と責任を携え、神奈川県と『同じ目線・同じ体温』で県民の安心と安全のために貢献していきたい」とあいさつした。

講演で小泉議員は全国を巡った経験の中から、徳島県神山町の「創造的過疎」という新たな価値を生み出す取り組みを始め、良い商品と消費者ニーズの乖離（かいり）などの事例を説明した。その上でCLT（直交集成板）やセルロースナノファイバーなどの普及促進、東京五輪を視野に入れた農業の国際認証「グローバルGAP」取得など農林業活性化に向けた活動を呼び掛け、魅力をつくって若い人を呼び込めるよう「農業林業の発展に全力を尽くしていきたい」と語った。